

地方創生アイデアコンテストに岩内活性化策提言

樽商大ゼミ 全国2位



夏の岩内港に観光客を ニシン加工で雇用創出

小樽商大の大津晶准教授のゼミ(社会学)が、優れた地域活性化策を競う国主催の「地方創生・政策アイデアコンテスト2016」で全国2位に当たる優秀賞を受賞した。若年層の人口流出傾向が続く岩内町に、岩内港などを活用した観光振興策やニシンの加工などで雇用を創出する政策を提言。中心メンバーの中田康子さん(4年生)は「岩内が活性化する可能性があることを感じてほしい」と話している。

(三坂郁夫)

コンテストは昨年度に続き2回目。大学生以上の一般の部と高校生以下の部の2部門に分かれ、一般の部には486件の応募があった。最終審査会は21日に東京で行われ、小樽商大を含む全国から選ばれた5チームが政策を発表した。提言では、岩内町は海洋資源に恵まれているほか、外国人観光客の増加で発展するニセコ町と隣接していることを強みにすると指摘。その一方、少子化や産業の衰退などが弱みと分析。岩内港で釣り道具を貸し出すなどして、海を活用した野外活動を充実させることで夏季の観光客増加に結びつけるよう求めた。自治体向けの非常食としてニシンの缶詰を製造する政策なども提案した。

同大の大津准教授が岩内町のまち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の委員長を務めた縁で、昨年9月からゼミに所属する3、4年生の29人が中心となり政策を取りまとめた。今回の地方創生政策コンテストで岩内町の活性化策を提言し、優秀賞を受賞した大津ゼミの学生

コンテストでは、地域の課題を的確にとらえ、現実的で前向きな提案となっていたことなどが評価された。ゼミ生は3月2日に岩内町地方文化センターで開かれる町民向けのフォーラムで、この政策を発表する。佐々木康太郎さん(3年生)は「自分たちが考えた政策で町の課題や伸びしろを分かりやすく伝えたい」と話す。